



月大当局のロックアウト解除に続く教育監獄の  
うち固めを、反産協・反右シズムの隊列で粉碎  
せよ!

月大当局の欺瞞的「大学改革委中間答申」説明会を戦  
的助手共闘と連帯して粉碎せよ!

藤訪米を11.16-17羽田現地阻止斗争と叫び  
たバリケード・ストライキで斗い抜け!

12.21山猫スト→ゼネストを背景とした対政府中枢斗  
争、10.31国労・勤労労働者との共闘をうけとめ11.13  
ゼネスト・対政府中枢斗争を斗い抜け!

大教職員諸氏ならびに学友諸君へ

このDRの発動に示されるものは、世界資本主義の根本的矛盾の心臓部における表面化である。フランスの切下げ  
の切上げ等々ドルポンド体制の崩壊=世界資本主義の根底的な揺さぶり状態は、ブルジョアジーに代る新し  
い階級の成熟、プロレタリアートの政治・社会支配能力の獲得を待ち望んでいるのだ。ベトナム反革命戦争に  
けるアメリカ帝国主義の後退にみられる如く、更にフランス五月にみられる如く先進国諸国は矛盾の顕在化を  
の前にして、それを蔽い隠すことに奔走し、動搖してやまぬ体制の覺かな再建に躍起になっている。我が日本に  
ては自主防衛を目指した軍需産業の「復興」、沖縄の上からの返還をテコとした帝国主義ナショナリズムの進  
のキャンペーン、そしてかかる対外政策のもと、新日本製鉄の台頭、コンピューターの導入、日鉄労働者の16500  
人の合理化、等々、第三次合理化による高速度社会への脱皮をドラスティックに行う一方、その過程における矛盾その  
ものの暴露を隠蔽するものとして、ブルジョアジーの総力をあげての、労働者・学生の斗いの圧殺と、ファシズム大衆  
運動が現在進行していることを見る必要がある。

労働生活から消費生活に至る全分野における資本への隷属の深化-労働監獄の形成を目指した帝国主義的再編  
が進行している現在、かかる下部構造に規定されつつ行なわれる「教育」分野において、もちろん、帝国主義的再編  
教育監獄の形成の論理は、我々の隊列が未熟である限り貫徹する。おなわち、70年代開放経済体制下において  
国際競争に打ち克つために、より一層の高度専門技術者・研究者を要する、従い、学生が対象と感じ、抑圧の対象とし  
て鮮明化したあの「古い大学」は、ブルジョアジー自身によっても根柢となったのである。それゆえに、国際分業

社会内分業に適合した高度な科学技術研究者の養成のための大学院大学・専門化大学の目的別化等と並んで、  
各機関と研究機関の徹底的な分化と専門化—一般教養の大偏削減と「テクノロジー教育」大学の管理運営の  
一元化—初等化—経営機能、教育機能、研究機能の分離、教育労働者としての合理的な管理、学生参加等、また、  
新旧土佐合併案計画—他経済系系のものを持ち込み—新幹線大学構想といった帝国主義的再編が夢  
である。こうした再編の道を学生の闘い=団結の在野と解体を通して、開くものとして「大学立法」があら  
わし、明大における「大学改革委員会」による共同答申に基く道程もあるのだ。

それであるが故に、我々は帝国主義的再編の完成過程における徹底的な分断支配「専門分野」を通じての  
この再編による人間性の磨滅に至る教育監獄に対して、大学立法—中政審答申—近代化路線に対して、我々  
自分たちの共同による、自分たちの労働の支配のために「全労働者、学生と連帯した百教員」にわたる人  
ドストライキを闘ってきた。しかるに明大当局は、10月9日早朝、我々に対して「社会的責任」にた  
らざる下で、機動隊導入—封鎖解除—ロックアウト、という暴挙に出たのである。ロックアウトは、ま  
だ闘争を前化した、治安当局の検閲校一掃という方針の下に為された、安保長期ロックアウト、および  
教員—授業再開—正常化政策をみつけたものである。また、彼らの言う「社会的責任」とは、国  
安当局に対する、学園管理学生管理の責任以外の何ものでもないであろう。

更に、かかる現実には、当局の「大学の自治」論の破産を意味するものならず、当局の教職員に対する  
労働監獄の形成、および、学生に対する教育監獄の徹底的な再編—帝国主義的再編への強制的な改訂  
で、いわゆる「責任」を遂行していく決意を、明確に示さねばならぬであろう。

10月9日のロックアウト以来約1月経た本日、及び10日の授業再開を前にして、教職員集会は如何なる  
として位置づけられるのか。学生の闘いの在野と解体を通して、明大における帝国主義的再編を打ち  
の授業再開に向けての布石以外の何ものでもないことを踏まえておいてほしい。そうであるが故に、  
明大教職員にとっての労働監獄、学生にとっての教育監獄の更なる強化を、完全に破壊するべく、  
今日の教職員集会を粉砕し、かかる明大当局の意図その人の痛烈にして根絶的弾劾の場へと転化し、  
弾劾集会を在野に、立ち取って行くではありませんか。

明大教職員諸氏、明大校友諸君！かかる教育監獄、労働監獄の根絶的弾劾の場へと転化し、  
日本ブルジョアジーの百年、百年を掲げた反革命会議の玉串へ躍起しようではありませんか。  
日本カトリックの革命的エネルギーと叫び、教職員労働の徹底的な改編を求め、日本労働  
を、出猫ストからバリケード・ストライキで、学生の闘いの隊列と呼びよせよ。

おんこの学友は、11.13—11.16—17斗争へ躍起せよ！

### 明治大学法学部斗争委員会 1969.11.8

なお、別紙印刷の如く、法学部斗争委員会は11月4日法学部教授に  
対して、国交要求書を郵送しました。